

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成24年11月14日

【四半期会計期間】 第45期第2四半期
(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)

【会社名】 株式会社さくらケーシーエス

【英訳名】 SAKURA KCS Corporation

【代表者の役職氏名】 取締役社長 岸川和久

【本店の所在の場所】 神戸市中央区播磨町21番1

【電話番号】 078(391)6571(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営企画部長 山本修嗣

【最寄りの連絡場所】 神戸市中央区播磨町21番1

【電話番号】 078(391)6571(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営企画部長 山本修嗣

【縦覧に供する場所】 株式会社さくらケーシーエス東京本社
(東京都中央区日本橋室町四丁目5番1号)
株式会社さくらケーシーエス大阪支社
(大阪市淀川区宮原四丁目1番14号)
株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第2四半期 連結累計期間	第45期 第2四半期 連結累計期間	第44期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高 (百万円)	9,393	9,855	20,616
経常利益 (百万円)	125	250	461
四半期(当期)純利益 (百万円)	125	153	198
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	85	43	204
純資産額 (百万円)	13,861	13,888	13,912
総資産額 (百万円)	17,827	18,170	18,692
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	11.23	13.69	17.68
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	77.8	76.4	74.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	817	998	1,141
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	114	247	59
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	245	224	476
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	5,658	6,334	5,806

回次	第44期 第2四半期 連結会計期間	第45期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	22.91	17.96

- (注) 1 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、新株予約権付社債等潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社及び連結子会社（以下、「当企業集団」という。）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当企業集団の当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、自治体向けのシステム機器販売が増加したことに加え、金融機関・一般法人向けシステム構築業務が増加したことから、売上高は9,855百万円と前年同四半期比462百万円（4.9%）の増収となりました。

また、損益面につきましても、増収効果に加えて、要員稼働状況改善などによる原価率改善を主因として、営業利益は206百万円と前年同四半期比105百万円（105.3%）の増益、経常利益も250百万円と前年同四半期比124百万円（99.2%）の増益となり、その結果、四半期純利益につきましても153百万円と前年同四半期比27百万円（21.9%）の増益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

金融関連部門

三井住友フィナンシャルグループ及び地域金融機関向けシステム構築業務が引き続き堅調に推移したことを主因として、売上高は2,756百万円と前年同四半期比176百万円（6.8%）の増収となりました。

公共関連部門

自治体向けのシステム機器販売が好調だったことを主因として、売上高は2,402百万円と前年同四半期比280百万円（13.2%）の増収となりました。

産業関連部門

システム機器販売及びシステム運用管理業務が減少しましたが、関西地区における一般法人向けシステム構築業務が増加したことから、売上高は前年同四半期比5百万円（0.1%）増の4,696百万円とほぼ前年同四半期並みとなりました。

当企業集団の事業につきましては、システムの納入が第2四半期（7～9月）及び第4四半期（1～3月）に集中する傾向があり、売上高が第1四半期（4～6月）及び第3四半期（10～12月）において

減少し、第2四半期（7～9月）及び第4四半期（1～3月）に増加するパターンとなり、四半期毎・半期毎の経営成績が変動いたします。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、資金という。）は、前連結会計年度末に比べ527百万円増加して6,334百万円となりました

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは前年同四半期比181百万円増加し、998百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における資金増加の主な要因は、税金等調整前四半期純利益の計上に加えて、前連結会計年度末に計上した売上債権を回収したことによるものであります。一方、資金減少の主な要因は、仕入債務の支払に加えて、たな卸資産の増加によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは前年同四半期比132百万円減少し、247百万円のマイナスとなりました。当第2四半期連結累計期間における資金減少の主な要因は、アウトソーシングセンターの防水機能強化工事等による固定資産の取得による支出であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは前年同四半期比21百万円増加し、224百万円のマイナスとなりました。当第2四半期連結累計期間における資金減少の主な要因は、リース債務の返済による支出及び配当金の支払いによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において当企業集団の事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,200,000	11,200,000	大阪証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株であります。
計	11,200,000	11,200,000	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年9月30日		11,200,000		2,054		2,228

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	3,083	27.53
三井住友ファイナンス& リース株式会社	東京都港区西新橋3丁目9-4	1,980	17.67
富士通株式会社	川崎市中原区上小田中4丁目1番1号	1,550	13.83
さくらケーシーエス 従業員持株会	神戸市中央区播磨町21-1	1,265	11.29
株式会社みなと銀行	神戸市中央区三宮町2丁目1-1	310	2.76
SMB C コンサルティング株式会社	東京都千代田区麹町2丁目1-4	140	1.25
さくらカード株式会社	東京都中央区日本橋堀留町1丁目8-12	110	0.98
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	100	0.89
グローリー株式会社	兵庫県姫路市下手野1丁目3-1	100	0.89
兵庫トヨタ自動車株式会社	神戸市中央区磯辺通4丁目2番12号	80	0.71
計		8,719	77.85

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,198,800	111,988	-
単元未満株式	普通株式 800	-	-
発行済株式総数	11,200,000	-	-
総株主の議決権	-	111,988	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式94株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社さくらケーシーエス	神戸市中央区播磨町21番1	400	-	400	0.00
計	-	400	-	400	0.00

2 【役員】の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,506	3,034
受取手形及び売掛金	5,366	3,887
有価証券	3,300	3,300
商品	180	257
仕掛品	319	553
貯蔵品	40	210
その他	1,039	943
貸倒引当金	8	6
流動資産合計	12,744	12,180
固定資産		
有形固定資産	3,336	3,435
無形固定資産	459	434
投資その他の資産		
投資有価証券	1,384	1,234
その他	776	893
貸倒引当金	8	7
投資その他の資産合計	2,152	2,119
固定資産合計	5,948	5,990
資産合計	18,692	18,170
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,872	1,419
未払法人税等	34	111
賞与引当金	673	550
受注損失引当金	-	5
その他	1,060	935
流動負債合計	3,640	3,022
固定負債		
退職給付引当金	279	314
役員退職慰労引当金	93	79
資産除去債務	10	4
その他	755	860
固定負債合計	1,138	1,259
負債合計	4,779	4,281

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,054	2,054
資本剰余金	2,228	2,228
利益剰余金	9,536	9,623
自己株式	0	0
株主資本合計	13,820	13,906
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	92	17
その他の包括利益累計額合計	92	17
純資産合計	13,912	13,888
負債純資産合計	18,692	18,170

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	9,393	9,855
売上原価	7,598	7,938
売上総利益	1,795	1,917
販売費及び一般管理費	1,694	1,710
営業利益	100	206
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	17	24
不動産賃貸料	36	31
雑収入	9	25
営業外収益合計	66	84
営業外費用		
支払利息	17	15
不動産賃貸費用	19	17
雑損失	4	7
営業外費用合計	41	40
経常利益	125	250
特別損失		
固定資産除売却損	164	-
減損損失	1	-
投資有価証券評価損	0	-
特別損失合計	165	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	39	250
法人税等	165	97
少数株主損益調整前四半期純利益	125	153
四半期純利益	125	153

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	125	153
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	40	110
その他の包括利益合計	40	110
四半期包括利益	85	43
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	85	43

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	39	250
減価償却費	386	336
減損損失	1	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	1
賞与引当金の増減額(は減少)	33	122
受注損失引当金の増減額(は減少)	18	5
退職給付引当金の増減額(は減少)	113	34
受取利息及び受取配当金	20	27
支払利息	17	15
固定資産除売却損益(は益)	164	2
投資有価証券評価損益(は益)	0	-
売上債権の増減額(は増加)	1,776	1,478
たな卸資産の増減額(は増加)	437	480
仕入債務の増減額(は減少)	663	452
その他	132	22
小計	924	1,059
利息及び配当金の受取額	20	26
利息の支払額	17	15
特別退職金の支払額	-	36
移転費用の支払額	-	52
法人税等の支払額	111	25
法人税等の還付額	-	41
営業活動によるキャッシュ・フロー	817	998
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	53	86
有形固定資産の売却による収入	100	-
無形固定資産の取得による支出	53	77
投資有価証券の取得による支出	3	4
投資有価証券の売却による収入	0	-
その他の支出	107	101
その他の収入	2	21
投資活動によるキャッシュ・フロー	114	247
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	178	156
配当金の支払額	67	67
財務活動によるキャッシュ・フロー	245	224
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	457	527
現金及び現金同等物の期首残高	5,201	5,806
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,658	6,334

【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年9月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ0百万円増加しております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年9月30日)
1 税金費用の計算 当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
従業員給料手当	672百万円	730百万円
賞与引当金繰入額	167百万円	155百万円
退職給付費用	68百万円	75百万円
役員退職慰労引当金繰入額	15百万円	16百万円

2 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

当企業集団の事業につきましては、システムの納入が第2四半期(7月~9月)及び第4四半期(1月~3月)に集中する傾向があり、売上高が第1四半期(4月~6月)及び第3四半期(10月~12月)において減少し、第2四半期(7月~9月)及び第4四半期(1月~3月)に増加するパターンとなり、四半期毎・半期毎の経営成績が変動します。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
現金及び預金	2,658百万円	3,034百万円
有価証券	3,000百万円	3,300百万円
現金及び現金同等物	5,658百万円	6,334百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

- 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	67	6.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

- 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年10月28日 取締役会	普通株式	67	6.00	平成23年9月30日	平成23年12月9日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

- 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	67	6.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

- 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	67	6.00	平成24年9月30日	平成24年12月7日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	金融関連 部門	公共関連 部門	産業関連 部門	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,580	2,121	4,691	9,393	-	9,393	-	9,393
セグメント間の内部売上 高又は振替高	5	34	375	416	-	416	416	-
計	2,585	2,156	5,067	9,809	-	9,809	416	9,393
セグメント利益	460	233	400	1,094	-	1,094	994	100

(注)1 セグメント利益の調整額 994百万円は、管理部門の費用のうち配賦の困難な費用等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	金融関連 部門	公共関連 部門	産業関連 部門	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,756	2,402	4,696	9,855	-	9,855	-	9,855
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1	5	366	373	-	373	373	-
計	2,758	2,408	5,063	10,229	-	10,229	373	9,855
セグメント利益	512	170	468	1,151	-	1,151	944	206

(注)1 セグメント利益の調整額 944百万円は、管理部門の費用のうち配賦の困難な費用等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(金融商品関係)

企業集団の事業の運営において重要なもので、かつ、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動があるものはありません。

(有価証券関係)

企業集団の事業の運営において重要なもので、かつ、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動があるものはありません。

(デリバティブ取引関係)

当企業集団はデリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	11.23円	13.69円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	125	153
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	125	153
普通株式の期中平均株式数(株)	11,199,506	11,199,506

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、新株予約権付社債等の潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第45期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)中間配当については、平成24年10月31日開催の取締役会において、平成24年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議致しました。

中間配当金の総額 67百万円
1株当たりの金額 6円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成24年12月7日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月13日

株式会社さくらケーシーエス

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 北 本 敏 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 三 井 孝 晃 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社さくらケーシーエスの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社さくらケーシーエス及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。